

## 平成29年度 第2回 地域包括支援センター運営協議会議録

- 日 時 平成30年2月27日（火） 午後7時00分～午後9時30分
- 場 所 宇都宮市役所16中会議室
- 出席者 【委 員】  
村井委員，臼井委員，糟谷委員，大武委員，山本委員，福田委員，塩澤委員，  
檜山委員，小野委員，山田委員 <欠席 大島委員，中山委員>  
【事務局】  
高齢福祉課長，高齢福祉課介護保険担当主幹，高齢福祉課長補佐  
地域包括ケア推進室長，高齢福祉課相談支援グループ係長，  
高齢福祉課事業グループ係長，高齢福祉課職員1名

○ 公 開 傍聴者 なし

### ○ 会議経過

#### 1 開 会

#### 2 会長あいさつ

#### 3 議 事

##### (1) 報告事項

- ア 地域包括支援センターの新規業務について【資料1・2】  
イ 地域包括支援センターの事業評価（自己評価・ヒアリング）について【資料3】

##### (2) 協議事項

- ア 地域包括支援センターの事業評価（運営協議会による評価）について【資料4】  
イ 平成30年度宇都宮市地域包括支援センター運営事業実施方針について【資料5】

### ○発言要旨

- ・報告事項 ア 地域包括支援センターの新規業務について【資料1・2】

#### <事務局資料説明>

臼井委員 認知症初期集中支援チームは，家族等からの申し出から設置されるまで，どのくらいの期間を想定しているのか。

事務局 1週間程度以内には，設置につなげていきたいと考えている。

臼井委員 迅速な対応ができるとよい。

事務局 チームの設置にあたっては，地域ケア個別会議で必要性を検討すると資料にあるが，時間がない場合は，包括と高齢福祉課の協議の中でチーム設置という形をとっていきたいと考えており迅速な対

応に努める。

**山田委員** 最近、若年性認知症の方も増えているが、その場合もこのチームを組んで支援してもらえるのか。

**事務局** 対象者は40歳以上の方としており、同じく必要なところにつないでいきたい。

**村井会長** 資料1の医療・介護連携支援センター等の設置については、市内を5つのブロックに分けて、医療・介護連携支援センターを設置していくものである。何かご意見ございますか。

・報告事項 イ 地域包括支援センターの事業評価（自己評価・ヒアリング）について【資料3】

<事務局資料説明>

**村井会長** 自己評価が低かった項目に注目すべき。社会資源マップ・リスト作成・更新の項目については、社会資源の把握に留まらず、活用方法等についての検討が必要である。包括が、社会資源を安定的に上手に活用できるよう進めていただきたい。

また、成年後見、虐待予防、消費者被害に関する周知についての項目については、物を買わされてしまったという声もきく。これからは認知症の方でも安心して暮らしていただけるような地域づくりを進めていく中で、成年後見制度や消費者被害対策も重要度が増してくる。

包括が、問題のある家庭・本人を把握した後に、いかに、しかるべき機関に繋いで問題を解決していくかが重要。仕事の出口がないと、包括に問題が集中してしまう。地域や他の機関、職種につないでいくことが重要である。

**大武委員** 成年後見制度においては、一人暮らしで家族がいない場合などには、市長申立てにつないでいる。家族がいる場合は、家庭裁判所の受付窓口につないでいる。家族が他県にいる場合は、そちらの裁判所でも申立てができるので申請しやすくなっている。

**村井会長** 好事例を25カ所のセンターでうまく共有してもらいたい。仕事をスピーディに他の機関につなぐことは大事な視点である。

**塩澤委員** 事業評価は、包括としても、いい機会だったと感じている。自分たちの業務の進捗をみながら評価することは大切である。各センターでの業務の進め方にばらつきがあることが、ひとつの課題としてみえた。この評価結果を包括全体もしくは、それぞれのブロック内で示して、包括同士のディスカッションに使うと相乗効果が生まれるのではないかと。今回の評価では、アピールポイントもあげられており、好事例は市全体の包括が参考にできる。

評価項目について見直しすべき点もあったと説明があったが、私からもひとつ提案がある。評価が低かった項目1にも関連するが、地域資源を把握したり情報集約したりという作業は、包括から、第2層の協議体に移行していくという可能性もあり、後段の資源マップの作成は包括の業務から離れていくであろうし、前段の地域におけるネットワーク構築が包括の役割として重要視されるところもある。評価項目に包括が縛られることがないよう、フレキシブルに見直していければと思う。

**村井会長** いい機会なので、今後は包括の職員のみなさんに顧みていただき、評価結果を踏まえて意見交換してもらおうと理解が深まるのではないかと。主観的な評価なので、できているのに「できていない」と自己評価したり、その逆もあるため、比較できるものではないが、活用することでより議論が深まり、今後の一手が出てくると思うので、進めていただきたい。

地域の様々な機関とネットワークを構築して、包括がネットワークの中核にあるという絵図を描かなければならない。包括だけですべてを解決するものではない。地区の保健師や、食生活改善推進委員、

体操教室など地域にいる様々な人や機関と横の連携を図ってけるとよい。

**小野委員** 自己評価の結果についての妥当性は、いかがか。

**事務局** シート①の運営体制に関する指標については、概ね全てのセンターでできていると感じている。シート②の業務実施状況に関する指標については、一部包括間でバラつきがあるが、業務ごとにみると、全体として弱い項目がある程度見えてきたと感じている。

**小野委員** 今回、上半期で自己評価をしたが、今後、下半期の自己評価もやるのか、もっと長期的に総合的な評価を行うのか。

**事務局** 上半期をやって下半期に生かせればと考えている。自分たちで見直すことで気づくこともある。今のところ、このサイクルでやっていきたいと考えている。指標は都度見直していきたい。

#### ・協議事項 ア 地域包括支援センターの事業評価（運営協議会による評価）について

##### <事務局資料説明>

**事務局** 総評については、5段階ありますが、事務局案ではすべて「3」としているので、プラス、マイナスすべき所があるかどうかご協議いただきたい。また、運営協議会からの意見ということで、気づいた点や改善すべき点、良い点などを中心にご意見いただきたい。

ベースは「3」とし、極端にどちらかに振れるという場合には、評価段階を上げ下げすべきと考えている。

##### 御本丸

**山田委員** 御本丸の評価シートに高齢者の虐待の記載があるが、この虐待は家庭内か、施設内か。

**事務局** 基本的に包括は在宅の高齢者を担当しているので在宅である。

**村井会長** ポジティブな意見やネガティブな意見がでなければ、このまま事務局案の「3」の評価にしていきたいと思う。また、御本丸は、虐待事例について問題意識をあげており、問題はないとするより問題意識を持つことが大切である。今後も様々な問題提起をしていただけることを期待している。

##### ようなん

**村井会長** 職員に欠員が出ているようだ。職員配置はベーシックな部分なので配置されるようお願いしたい。

**福田委員** ようなんは地域の合同会議にも積極的に参加し、協議体作りも一生懸命取り組み、しっかり運営はできている。

**檜山委員** ふれあい給食にも必ず参加して、高齢者と密に話をしてくれており、よくやっている。総評は、プラス評価にしていいと思う。

##### きよすみ

**村井会長** マッピングはこれからどこの包括もやっていかなければならないものであり、それを率先してやっているのは素晴らしい。相談室の整備の問題は、施設の構造上、改善は難しいものなのか、工夫すれば改善できるものなのか。

**事務局** パーテーションで区切るなどの対応でプライバシーに配慮した環境は確保できる。

**大武委員** すでにマッピングに取り組んでいるのは素晴らしい。砥上でも民生委員から提案を受けているが、なかなか手をつけられていない。好事例として挙げてよいのではないかと。

**村井会長** マッピングは好事例ということで挙げ、総評もプラス評価ということよいか。相談室の整備の問題については、無理のない程度で改善をお願いしたい。

### 今泉・陽北

**村井会長** 個人台帳というのは各包括で作成すべきものなのか。

**塩澤委員** 個人台帳がデータ化されているのは素晴らしい。紙ベースで管理していたり、データ化が完全でなかったりする包括もあるので、取り入れたい取組である。

**村井会長** うまくいく要素となる取組であれば、様々な包括にも事例として共有してもらうことが大切。プラス評価でよいか。

**大武委員** 砥上では紙の台帳がかなりの量ある。今年の1月からパソコンでの管理を始めた。パソコンでの全体の管理は、包括全体でやれるとよい。

**村井会長** セキュリティに関しては注意をしていただきたい。

### さくら西

**村井会長** チラシに顔写真を載せているという取組は、地域の人に顔を覚えてもらえるため、大変よい取組である。地域に顔を覚えてもらうことは大切である。

また、共有ファイルによる情報の共有がされているのもよい。

### 鬼怒

**塩澤委員** 各地区のハイリスク高齢者の一覧表の作成の取組については、他の包括にも参考に研修会などで好事例として紹介するとよい。

**村井会長** ぜひ、好事例として挙げてよい取組である。また、「サロンや老人会を職員が連携して計画的に運営できている」とあるが、これからは包括が直接運営するのではなく、種をまいて地域で育つてくるとよいと思う。

### 清原

**村井会長** 宇都宮市の第2層協議体設置第1号として頑張っている地域である。ケアマネの顔写真入り一覧の作成というのもよい取組である。地域の横連携が進んでおり、うまくネットワークが築けている。

**檜山委員** うまく活動している印象である。

**小野委員** 公正中立に努めていることはとても大切なことである。

**村井会長** では、プラス評価といたします。

### 瑞穂野

**村井会長** 成年後見制度について判断が難しいとあるが、課題意識をもっていることはよいことである。

### 峰・泉が丘

**村井会長** 包括としての経験が浅いと自己評価に書いているが、市の評価には、それが問題になっているという記載はないので謙遜して書いているのかなと思う。包括をアピールし相談しやすいセンターづくりも頑張っている。

## 石井・陽東

**村井会長** チームアプローチ、研修会、相談など熱心にやっている印象である。小学生を対象にしたBLS教育活動の実施は他の包括ではあまりやっていないような取組か。

**事務局** 他の包括ではあまり聞いたことがない。

**村井会長** このような取組事例を他の包括にも周知するといいい効果が生まれると思う。

**塩澤委員** 地域ケア会議を毎月実施していることも、かなりプラスの要素である。

**村井会長** ではプラス評価といたします。

## よこかわ

**村井会長** 地区の各種団体として位置づけられていることや地域ビジョンの委員に推薦されているというのは、特出すべきポイントと理解しているのか。

**塩澤委員** 特出すべきポイントであり、地域との連携として非常に素晴らしいことと思う。

**村井会長** 他の包括も地域の中の重要な関連団体としてもっと連携を図ってほしい。

**大武委員** 砥上でも2つの地域からまちづくり協議会の委員として声をかけていただいている。地域ビジョン作りもまちづくり協議会でやっていると思うが、まちづくり協議会の一員となることもひとつのポイントである。

**村井会長** 地域のまちづくり協議会は、これからのまちづくりには欠かせない連携先である。今後、評価の指標に加えてもいいのではないか。

## 雀宮

**村井会長** ここは医療法人が運営しているが、それを活かした活動ができています。

逆に、医療法人が受託していると、社会福祉法人とは違ったマイナスの面はあるのか。

マイナス面がないのであれば、医療法人であるメリットなどをもっと自己評価にコメントしてもらえるとよいのではないかと。

## 雀宮・五代若松原

**村井会長** 地域の人と介護予防支援事業に取り組んでいるとアピールポイントに挙げているが、ずっと包括が係わり続けるのではなく、今後、どのように地域の自主的な取組につなげていくかが重要である。その視点を持っていただきたい。

ここは徘徊模擬訓練を頑張っているということもあり、プラス評価でよいと思う。

## 緑が丘・陽光

**村井会長** ここは医療との連携があまりアピールされていない。他の包括ではやっていないような、特出すべきアピールポイントがあれば書いてもらえるとよい。

## 砥上

**村井会長** 多職種参加の地域ケア会議を発足したということだが、このような取組はほかの地域ではまだ難しい状況か。

**事務局** 地区市民センター所長や医師、薬剤師などが必ず参加しているというのは、他ではまだ多くはない。

**村井会長** ではそういう点において、プラス評価ということでもよろしいか。

## 姿川南部

**村井会長** 何かアピールできる取組を今後期待している。他の地域の特出できる取組事例で、取り入れられそうなものがあれば参考にしてほしい。

## くにもと

**村井会長** 支援困難事例がないというのは、本当にならないのか。積極的な拾い出しという視点で問題があるのではないかと気になる。

**糟谷委員** 困難事例がないにもかかわらず、それに対する自己評価が高いのが気になった。

**村井会長** こういうところはマイナス評価とさせていただいて、今後、積極的に問題を拾い上げていただくということを期待している。

## 細谷・宝木

**村井会長** 課題意識もあり向上心を感じられる。民生委員や福祉協力員と支え合いマップづくりを行い地域での細かい情報を拾いあげているというのは、すばらしい取組であり好事例としてよい。プラス評価でよいと考える。

## 富屋・篠井

**村井会長** 自主グループやサロンも盛り返してきたことはすばらしい。地域の特性にあった支援ができているということである。

## 城山

**塩澤委員** 城山の地域ケア会議は、充実したメンバーで開催できており評価できる。

**村井会長** 地域ケア会議を率先して開催している。プラス評価でよいと考える。

## 豊郷

**村井会長** ケアマネジャーからの相談が多く、ネットワーク構築に努めているという特色がある。

**大武委員** 総合事業がスタートした際に、ケアマネジャーを集めて勉強会を開催したと聞いた。ケアマネジャーの研修を単独でやっているというのはすばらしい。今後、ケアマネジャーの役割はますます重要になるのでこのような取組は重要なことである。

**村井会長** そのような取組を行っているということで、プラス評価でよいと考える。

## かわち

**村井会長** 河内地域の3包括のイベントや勉強会をやっているのはよい。地域ケア個別会議を今後、力を入れていきたいと課題意識があることはよいことである。ぜひ今後、会議を開催して地域課題の把握など行っていけるとよい。

## 田原

**村井会長** アピールポイントである「土曜、祝日の営業」というのは、なかなか他ではやっていないものか。

**塩澤委員** それぞれの事業所の事情もある。

**村井会長** 他ではなかなかできていないものであり、頑張っていると評価していいのか、それとも一般

的なことなのか。

**事務局** 市としては、月～金の開設と、土日祝日については緊急時には連絡が取れる体制の確保を仕様書で示している。土曜、祝日は必ず開設すべきものではない。

**塩澤委員** 土曜、祝日に開設している包括は少ない。連絡体制が整っていることが大切。

**事務局** 法人施設と併設の包括は、法人のルールでやっているの、休日も開設しているところもあるが、田原は単独設置の中での開設なので他の施設とは違っている。

**村井委員** 他の包括でもやっているところもあるということで、評価はこのままでよいと思う。

## 奈坪

**村井会長** 社会資源のマップの掲示はおもしろい取組である。引き続き頑張っていたきたい。

## 上河内

**村井会長** 高齢者数も少なく、比較的落ち着いた運営ができていないかと思う。周知活動は、今後も頑張っていたきたい。共有フォルダの話があるが、どういう形で情報共有しているのか興味と不安がある。

**事務局** 職員のそれぞれのパソコンから共有フォルダ内のファイルを見ることができる。そのため、担当者が不在の場合でも問い合わせ等に対応できるようになっている。

**村井会長** いづれにしても情報の漏えいには注意していただきたい。

※ 各包括支援センターの総合評価については、別紙1「総合評価シート総評」のとおり

**村井会長** 今回評価をしてみて、謙遜して自己評価する包括もあるため、横での比較は難しい印象を持った。

だが、自主的な取組事例がみえたし、高齢者の虐待や権利擁護への課題意識を持っていることがわかった。地域ケア個別会議がうまく実施できていない、マニュアルが必要などの課題も見えた。見えてきた課題を評価軸に結びつけていけるとよい。横で比較してどこの包括が良い悪いではなく、様々な意見を聞いて、より包括が仕事しやすい仕組みづくりにつながるとよい。

今後、国から具体的な評価の仕方が示される予定である。今回は、評価の取組の第一歩として前進した。

**塩澤委員** データで情報を管理するこの時代、便利である一方、大企業でも情報漏えいが問題になる状況。包括外の他の誰でも見ることができる可能性があるということ。この点だけは気をつけていただきたい。

**事務局** 評価のおさらいですが、総評として事務局案からプラスさせていく包括は、きよすみ、今泉・陽北、鬼怒、清原、石井・陽東、雀宮・五代若松原、砥上、細谷宝木、城山、豊郷の10包括。好事例推薦としては、好事例として、きよすみの、ひとり暮らし高齢者の情報の地図上にプロットしている取組、鬼怒のハイリスク高齢者一覧作成、細谷・宝木の地域でのマップ作りでよろしいか。

**村井会長** みなさんよろしいか。(委員了承)

**村井会長** 自分の地域には課題解決が困難な事例などの問題はないとしているのはよくない。積極的に問題点を抽出して、その問題を共有してもらいたいということを付言したいと思う。問題はないと思うことに問題を感じる。積極的に地域の問題をピックアップして具体的な解決策を考察も含めて示していただけると、よい分析ができる。

・協議事項 イ 平成30年度宇都宮市地域包括支援センター運営事業実施方針について

<事務局資料説明>

**村井会長** これまでも地域包括支援センターの役割は位置づけられてきたが、機能強化した包括の役割として、認知症初期集中支援チームや地域ケア会議などが入ってきた。包括はさらに忙しくなるという不安感を持つかもしれない。包括の業務を他の関係機関につないでいくという視点で検討して、バックアップしていかなければならない。

**村井会長** 基幹相談支援センターの設置と市内5ブロックの地域内連携はどのような位置づけをするのか。

**事務局** 現在、高齢福祉課の相談支援グループで、地域包括支援センター全体を調整しているところだが、新年度から、医療機関の5ブロックに合わせて保健師を増員し5名体制でそれぞれのブロック担当を置いていき、これまで以上に包括のバックアップ機能の強化をしていきたいと考えている。

**大武委員** ここでいう5ブロックと医療介護の連携のブロックは同じブロックと考えていいのか。今までと少し変わるということか。

**事務局** 一部、ブロック割り新しくなる包括もあるが、これまでの関係を壊すものではなく、基本的には医療・介護の連携のブロックとして新しく区切っていくが、これまでの関係を拒むものでない。

**事務局** 人口割りなどで5ブロックを決めたが、地区の社会福祉協議会の5ブロックと連携しながら進めていければと思う。

**村井会長** 医療・介護連携の5ブロックのほか、認知症など様々な取組ごとのブロック割りがあったが、同じ区割りに整理していくのが望ましいのではないか。混乱が生じそうなところがあれば対策を講じなければならぬ。



## 総合評価シート総評

- ①大きく期待水準以上の運営ができており、今後も、この評価結果を活用し、事業の向上に努めてほしい  
 ②期待水準以上の運営ができており、今後も、この評価結果を活用し、事業の向上に努めてほしい  
 ③期待水準の運営ができており、今後も、この評価結果を活用し、事業の向上に努めてほしい

- ④期待水準以下の運営であり、改善が必要な点があり、今後も、この評価結果を活用し、事業の向上に努めてほしい  
 ⑤大きく期待水準以下の運営であり、今後も、この評価結果を活用し、事業の向上に努めてほしい

包括名	総評	アピールポイント	運営協議会意見	好事例推薦	包括名	総評	アピールポイント	運営協議会意見	好事例推薦
御本丸	③	単位自治会ごとに、関係団体とともに地域内を実際に歩き、地区把握に努めている	虐待対応に対し問題意識があることはいいこと。今後も問題提起を期待している。		緑が丘・陽光	③	地域の行事等に積極的に参加し、顔の見える関係づくりから活動している	地域の行事等に積極的に参加し、顔の見える関係づくりから活動している。	
ようなん	③	毎週、症例検討会を実施し、3職種によるチームアプローチ体制の構築強化を図っている	人数の割に、地域の行事にも参加して、また協議体設置に向けても一生懸命やっている。		砥上	②	多職種が参画する地域ケア会議を発足することができた	地域ケア会議に地区市民センター所長や医師、薬剤師などが必ず参加している。	
きよすみ	②	ひとり暮らし高齢者の情報を地図上にプロットし、情報の見える化を図っている	ひとり暮らし高齢者の情報を地図上にプロットし情報の見える化を図っていることは好事例である。	◎	姿川南部	③	職員間での情報共有を密に図るようし、ケース支援がスムーズに行えるよう努めている	他の包括の取組事例で取り入れられそうなものを取り入れるとよい。	
今泉・陽北	②	職員間の情報共有を密に図り、チームアプローチを実践している	個人台帳のデータ化は評価できる。セキュリティの問題は注意が必要。		くにもと	④	地域行事に積極的に参加し、顔なじみの関係を作っている	困難事例は、積極的に拾い出しをするべき。	
さくら西	③	地域の行事等に積極的に参加し、地域の人たちと顔の見える関係を作っている	チラシに職員の顔写真を載せているのはよい取組。顔を覚えてもらうのは大切。		細谷・宝木	②	地域でマップ作りを行い、細かい情報収集をしながら、地域と顔の見える関係づくりに努めている	課題意識もあり向上心を感じる。民生委員等と支え合いマップづくりを行っているのは、すばらしい取組。	◎
鬼怒	②	地域行事に積極的に参加し、地域と連携を図ることで、地域主体の活動を後方支援している	ハイリスク高齢者の一覧表の作成は好事例である。	◎	富屋・篠井	③	地域行事に積極的に参加し、顔の見える関係づくりに努めている	自主グループやサロンに対し、地域の特性にあった支援をしている。	
清原	②	今年度、協議体を発足し、地域包括ケア実現に向け積極的に取り組んでいる	第2層協議体設置第1号であり、地域包括支援センターの横の連携が進んでいる。また、公正中立に努めている。		城山	②	地域に積極的に向き、密着した活動を行っている	地域ケア会議に率先して取り組んでいるのは好事例である。	
瑞穂野	③	地域連携に重点を置き、地域の情報が入りやすい環境づくりを心がけている	成年後見制度について、課題意識を持っているところはすばらしい。		豊郷	②	市民が相談しやすい環境づくり、事業所及びケアマネとの情報交換会や勉強会を実施している	ケアマネジャーの研修を単独で行っているというのはすばらしい。	
峰・泉が丘	③	地域住民が立ち寄りやすく、相談しやすいセンターづくりに努めている	問題意識が高い。また、相談しやすいセンターづくりに努めている。		かわち	③	地域団体と連携が図れており、公民館単位での介護予防活動も充実している	地域ケア個別会議を今後強化していけるとよい。	
石井・陽東	②	単位自治会ごとに見守り会議や、多職種の会の開催など、地域と密着した活動を行っている	小学生へのBLS教育活動の実施は珍しい。地域ケア会議を毎月開催しているのもすばらしい。		田原	③	単独設置するなど、地域住民が相談しやすい体制づくりに努めている	単独設置するなど、地域住民が相談しやすい体制づくりに努めている。	
よこかわ	③	地域団体や事業所と顔の見える関係づくりから一歩進んで、協働できる体制づくりを目指している	地域ビジョンの委員として参画しており、地域との連携がよくできている。		奈坪	③	地域との関係を大切にしており、3職種間の連携やチームワークで協働している	社会資源のマップの掲示はよい取組である。引き続き頑張ってもらいたい。	
雀宮	③	医師がセンター長であり、事業への医師の出席等、医療との協働・連携を図っている	医療法人が運営しているため医師が講座や地域ケア会議に参加している。医療法人であるメリットを出すすよ。今後に期待する。		上河内	③	地域団体の会議等に出席し、顔の見える関係を築き、ワンストップ窓口として対応している	落ち着いた運営ができています。	
雀宮・五代若松原	②	地域包括ケアシステムに向けて、積極的に地域の人たちと取り組んでいる	徘徊模擬訓練を実施しており、すばらしい取組である。		<b>【好事例】</b> ・ひとり暮らし高齢者の情報を地図上にプロットし、情報の見える化を図っている（きよすみ） ・ハイリスク高齢者一覧を作成し、心配な高齢者を自主的に訪問している（鬼怒） ・民生委員等と支え合いマップづくりを行い、地域での細かい情報を拾いあげている（細谷・宝木）				